

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

台形骨切りと水平骨切りによる舌骨位置の変化に関する後方視的検討

研究計画

(1)背景・意義

オトガイ形成術において、骨切りデザインは下顎底やオトガイ形態だけでなく、舌骨・気道構造にも影響を及ぼす可能性がある。特に顎下筋群の付着や牽引方向の変化により、術後の舌骨位置が変化することが知られており、術後の嚥下機能や気道確保にも関係すると考えられる。しかし、台形骨切りと従来の水平骨切りとの間で舌骨の位置に与える影響の違いについての検討は十分になされていない。

(2)目的

本研究では、台形骨切りと水平骨切りを用いてオトガイ形成術を行った患者における、術前後の舌骨位置の変化を後方視的に比較検討することで、それぞれの術式が舌骨位置に与える影響を明らかにすることを目的とする。

(3)方法

2019年1月から2023年12月までに当院にてオトガイ形成術(台形骨切りまたは水平骨切り)を施行された患者を対象とし、診療録およびCT画像・側面頭部X線規格写真(セファログラム)を用いて舌骨の位置変化(上下・前後方向)を計測・比較する。画像解析は、当科と連携している昭和大学矯正歯科講師の長濱諒先生が担当する。個人情報はずべて連結不可能匿名化を行った上で解析を行う。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

今井翔一: shoichiprs@gmail.com